

安全データシート(SDS)

作成日 2019/5/27

修正日 2022/3/28

1. 化学品及び会社情報

化学品: ジブロピレングリコール
供給者の会社名称: アーク株式会社
会社住所: 大阪市北区西天満3-10-3
電話番号: 06-6809-5970
FAX番号: 06-6809-5975
推奨用途および使用上の制限: 工業用原料

2. 危険有害性の要約

GHS分類: JIS Z 7252, 7253:2019 使用

物理化学的危険性:

火薬類: 分類できない
可燃性ガス: 分類できない
可燃性エアゾール: 分類できない
酸化性ガス: 分類できない
高压ガス: 分類できない
引火性液体: 区分に該当しない
可燃性固体: 分類できない
自己反応性化学品: 分類できない
自然発火性液体: 区分に該当しない
自然発火性固体: 分類できない
自己発熱性化学品: 分類できない
水反応可燃性化学品: 分類できない
酸化性液体: 分類できない
酸化性固体: 分類できない
有機過酸化物: 分類できない
金属腐食性: 分類できない

健康に対する有害性:

急性毒性-経口: 区分に該当しない
急性毒性-経皮: 区分に該当しない
急性毒性-吸入(気体): 分類できない
急性毒性-吸入(蒸気): 分類できない
急性毒性-吸入(粉塵/ミスト): 分類できない
皮膚腐食性/刺激性: 区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性/刺激性: 区分に該当しない
呼吸器感作性: 分類できない
皮膚感作性: 区分に該当しない
生殖細胞変異原性: 区分に該当しない
発がん性: 分類できない
生殖毒性: 区分に該当しない
特定標的臓器毒性
(単回暴露): 区分に該当しない
(反復暴露): 区分に該当しない
誤えん有害性: 分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性): 区分に該当しない
水生環境有害性 長期(慢性): 区分に該当しない
オゾン層有害性: 分類できない

GHSラベル要素:

絵表示またはシンボル:

注意喚起語: なし

・なし

危険有害性情報: ・情報なし

安全対策: ・保護手袋および保護眼鏡、保護面を着用すること。

- ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- ・容器を密閉しておくこと。
- ・必要に応じて個人用保護具を使用すること。
- ・取扱い後は、よく手を洗うこと。

応急措置: ・吸入した場合は空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

- ・気分が悪い時は医師の診断を受けること。
- ・暴露または暴露の懸念がある場合、医師の手当てを受けること。
- ・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。

- ・ 漏出物を回収すること。
 - ・ 皮膚刺激が生じた場合、医師の手当てを受けること。
- 保管：・ 容器を密閉にして、直射日光を避け、換気の良い涼しいところで保管すること。
- 廃棄：・ 内容物または容器を廃棄する場合は、都道府県の規則に従うこと。

3. 組成及び成分情報

単一/混合物：単一化学製品

成分：ジプロピレングリコール

CAS No.: 25265-71-8

化学式：C₆H₁₄O₃

含有率：99%以上

化審法官報公示整理番号：2-413

安衛法官報公示整理番号：2-413

安衛法通知物質：-

化管法：-

毒物及び劇物取締法：該当せず

4. 応急措置

吸入した場合：・ 蒸気・ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の洗浄な場所で安静にし、医師の診断を受ける。

- ・ 呼吸が不規則か、止まっている場合には人工呼吸を行う。嘔吐物は飲み込ませないようにする。直ちに医師の手当てを受ける。
- ・ 蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、直ちに空気の新鮮な場所へ移動し、暖かく安静にする。

皮膚に付着した場合：・ 付着物を布にて素早く拭き取る。

- ・ 外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診断を受けること。
- ・ 汚染された衣類、靴等を速やかに脱ぐか、取り去る。
- ・ 大量の水及び石鹸又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。

目に入った場合：・ 直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。次にコンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。まぶたの裏まで完全に洗うこと。

- ・ できるだけ早く医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合：・ 安静にして、できるだけ早く医師の診断を受ける。

- ・ 被災者に意識のない場合は、口からなにも与えてはならない。
- ・ 可能であれば吐き出させる。
- ・ 水でよく口の中を洗わせた上で、水を飲ませて希釈する。

5. 火災時の措置

消火剤：・ 炭酸ガス、泡、粉末

特有の消火方法、

消火を行うものの保護：

- ・ 可燃性のものを周囲から素早く取り除く。
- ・ 指定の消火剤を使用すること。
- ・ 高温にさらされる密閉容器は水をかけて冷却する。
- ・ 周辺火災に対応して、消火活動を行うこと。
- ・ 危険を避けられれば燃焼源の供給を止める。
- ・ 移動可能な容器は、安全に行える限り火災場所から搬出する。
- ・ 消火活動は、離れた風上から行う

消火を行う者の保護：・ 適切な保護具(耐熱性着衣など)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、

保護具及び緊急時措置：

- ・ 作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。
- ・ 周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。
- ・ 付近の着火源・高温体および付近の可燃物を素早く取り除く。

環境に対する注意事項：・ 河川への排出等により、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法/機材：

- ・ 漏出物は、密封できる容器に回収し、安全な場所に移す。
- ・ 付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置すること。
- ・ 衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。
- ・ 乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて回収する。大量の流出には盛土で囲って流出を防止する。

二次災害の防止策：・ 付近の着火源・高温体及び付近の可燃物を速やかに取り除く。

- ・ 着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い:

技術的対策: ・皮膚、粘膜、または、着衣に触れたり、眼に入らぬように保護具を着用する。

取り扱いは手・顔等はよく洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。

・周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。

注意事項: ・可燃性物質。引火点は比較的高く(132℃)、強く加熱すると空気と爆発性混合気を生じる。混合気は空気より重く、地表に沿って這うように動く。

高温物体の表面、火花または裸火により発火する。

・密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業する。

保管:

技術的対策:

適切な保管条件: ・火気、熱源から遠ざけて保管する。

・通風のよいところに保管する。

・日光の直射を避ける。

・酸化性物質、有機過酸化物との混合のおそれのある場所では貯蔵しない。

安全な容器包装材料: ・鋼製又はステンレス製の容器

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策: ・作業場所近くに、シャワー、手洗い及び洗眼の装置を取り付け、その位置を明確に表示する。

・屋内作業の場合は、作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置等によりにより作業者が暴露から避けられるような設備にする。

呼吸器の保護具: ・必要に応じて保護マスクを着用する。

手の保護具: ・有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。

目の保護具: ・保護眼鏡又は安全ゴーグルを使用する。

皮膚及び身体の保護具: ・必要に応じて着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态: 液体

形状: 情報なし

色: 無色

臭い: 無臭

pH: データなし

融点/凝固点: -40

沸点、初留点、沸騰範囲: 232 °C

引火点: 132 °C(クリーブランド開放式)

自然発火温度

(発火点): 350°C

燃焼または爆発範囲の上限/下限:

12.6 vol %/2.9 vol %

蒸気圧: 1.3 以下/20°C

比重(相対密度): 1.02g/cm³

水に対する溶解性: 易溶

溶媒に対する溶解性: 情報なし

その他のデータ: 情報なし

10. 安定性及び反応性

安定性(危険有害反応可能性):

・常温常圧で安定

・反応性: ・酸化性物質、有機過酸化物と反応する。

・燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素を発生する。

危険有害な分解生成物

・データなし

11. 有害性情報

急性毒性: LD50(経口) ラット 14850 mg/kg

LD50(経口) モルモット 17600 mg/kg

皮膚腐食性、刺激性: 皮膚 ウサギ 500mg/24h 軽度

眼に対する重篤な損傷・刺激性: 眼 ウサギ 500mg 軽度

生殖細胞変異原性: Ames試験 陰性(IUCLD Release3.1(2000.2))

発がん性: 日本産業衛生学会、ACGIH、NTP、IARCすべて記載なし。

人の健康に対する有害性: ・短期暴露で眼、皮膚を刺激する。

・反復または長期の皮膚への接触により皮膚炎を起こすことがある。

12. 環境影響情報

・漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。
特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

水生環境有害性:

48h LC50(ヒメダカ) 1g/l以上
残留性/分解性: ・分解されにくい。
生体蓄積性: ・濃縮倍率4.6倍以下

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物: ・残った製品(残余廃棄物)は、廃棄物の処理および清掃に関する法律、及び、都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。
・容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと
・排水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理および清掃に関する法律および関係する法規に従って処理を行うか、委託をすること。
・委託処理を行う場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者と契約すること。

汚染容器および包装: ・容器等の廃棄物は許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約して処理をする。

14. 輸送上の注意

陸上輸送: ・消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運送方法に従うこと。

海上輸送: ・船舶安全法に定めるところに従うこと。

航空輸送: ・航空法の定めるところに従うこと。

その他: ・運搬に際しては、容器を40℃以下に保ち、転倒、落下、損傷がないように注意すること。

・国連分類・国連番号(UN)・容器等級 : 該当なし

15. 適用法令

消防法: ・危険物 第四類 第三石油類 水溶性 危険等級 III

・指定数量: 4000L [火気厳禁]

外国貿易管理法:

・輸出貿易管理令別表第一 第16項 キャッチオール規制品目

その他の法令: ・労働安全衛生法 第57条の2(文書(SDS)の交付等): 該当しない。

・毒物及び劇物取締法: 該当しない

・化学物質管理促進法(PRTR法): 該当しない

・海洋汚染及び海上災害の防止に関する規則(海防法): 施行令別表第1

有害液体物質(Z類)

16. その他の情報

引用文献: ・「危険物ハンドブック」、シュプリンガーファラーク東京、新居六郎訳、1991

・「化審法の既存化学物質安全性点検データ集」、日本化学物質安全・情報センター、通産省化学品安全課監修、化学品検査協会編、1992

・Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS) National Institute for Occupational Safety and Health (NIOSH) , 1999

SDSは事業者を対象とした文書です。

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。

また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。

重要な決定等に利用される場合には、

出典等をよく検討されるか、試験によって確かめることをお勧めします。

記載のデータや評価に関してはいかなる保証をするものではありません。

また、記載事項は通常の取扱いを対象としたものですので、

特殊な取扱いをする場合には新たな用途・用法に適した

安全対策を実施した上、お取扱い願います。